

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成27年3月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 精神医療で大切なこと

松下 満彦

福岡大学病院 精神神経科 診療准教授

医師を含めすべての医療従事者は、社会の中では特異な立場にあり、専門的な知識や技能を求められるため様々な感情が生じやすいものです。心理的あるいは情動的な要因は医療のすべての領域において重要であり、もしかしたら、人の感情が関連しない医療はないのかもしれませんが。この感情があるために、医療人も含め、人はしばしばストレスを感じるようです。

ところで、ストレス社会とも呼ばれている現代社会では、メンタルヘルスを維持するのが難しいと言われていています。私たちがお母さんのお腹にいた頃は、自分で飲食しなくても成長し、息をしなくても生きていける環境であったのに対し、生まれてすぐに、自分で飲食(飲み込み)しないといけないし、息をしなないといけないというように、たちまちストレスな世界に飛び出してくるといっても過言ではないでしょう。その後の成長も同様で、いろいろな人の助けにより、現在に至っていることを、人によっては時々忘れそうになることがあるようです。これは自分を見失いそうになったときに、よくみられる現象のようで、このような場合、人の心には痛みを生じ、時には私たち精神医療の現場に訪れることがあります。

身体的な痛みであれば、例えばお腹の痛みで考えると、腹痛にはそれぞれに原因があり、いつから、どのような痛みが、どのような状況で起こるのか、あるいは、誘因を含め随伴症状や増悪の因子を特定し、何を食べたのか、他の者は何か変化はないのかなど色々聞くことでしょう。同様に、心の痛み、例えばうつ症状も、なぜそのようになっているのか本人から主観的なものも含め状況を聞き、また、できるだけ他の者からも客観的な状況を聞き総合的に状況を理解していきます。このようにして、生物学的な検査が少なくても、多くの精神疾患を除外し、特定していきます。身体疾患であれ精神疾患であれ、原因や理由が違えば、当然治療方法が変わってくるものです。治療については、常にエンゲルの提唱する生物-心理-社会モデル(bio-psycho-social model)、つまり「生物的要因」「心理的要因」「社会的要因」をもとに考えていきます。簡単に言うと、治療における生物学的要因は薬物療法、心理的要因は先ほど述べた原因や理由などを除去し、社会的要因は社会福祉などを利用し環境をサポートすることです。そのためには、疾患の理解とともに、人間の理解のために興味を持って考えていくことが、医療従事者として、より専門的な力をつけることになるのではないのでしょうか。

